

## 祝　　辞

大学・大学院に進学された皆さん。ご入学、まことにおめでとうございます。

人生の節目となる記念すべきこの日に、御本尊 阿弥陀如来の御前で入学式が挙行されますこと、心よりお祝い申しあげます。

大学は学問探求の場であるとともに、人格形成の大切な場でもあります。どうか実り多き学生生活をおくられますよう、念願いたしております。

また、大学四年間の勉学を修められ、この度、めでたく大学院へと進学された皆さんにおかれましては、それぞれの専攻課程において、さらなる研鑽を深め、学術研究に貢献されますこと、大いに期待いたします。

皆さんが通われる本学は、仏教の精神、特に親鸞聖人が開かれた浄土真宗のみ教えを「建学の精神」として教育にあたつ

ております。

約2500年前に釈尊がひらかれた教えのことを「仏教」といいますが、「仏教」という言葉 자체は、明治以降にキリスト教やイスラム教との対比から生まれたものです。それ以前は「仏法」と呼ばれていました。ここでいう「法」とは、この世界のありのままの真実ということであり、これは、時間と場所を超えた、普遍的なものであります。いつ、どんな時も、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるもの、それが仏法です。ブッデイズムというと、仏法は、一つの主義主張になってしまします。

皆さんもご経験の通り、昨年からの新型コロナウイルス感染症では、大きく社会が変化しました。ただ、世の中は、常に変化しているものですから、その意味では驚くことではありません。学生生活で、学問探求に励まれるとともに、どのように変化するなかにあつても、確かによりどころとなる仏法の真理観についても学んでいただきたいと思います。

そこで入学式にあたり、仏法に基づく二つのキーワードを皆さんに贈りたいと思います。それは精進と報恩感謝という言葉です。

お釈迦さまは臨終にあたり、次のように弟子たちに語られたといわれています。

「では修行者たちよ、汝たちに告げる。もろもろの現象は移ろいやく。怠らず、努めるがよい」

真実のさとりを求めて、ひたすら修行する、実践する、怠らず、努めることが「精進」です。人はみな、それぞれの道で生涯勉強、急げず努力精進することが求められている、それが肝要だということあります。その結果、うまくいくこともあるし、いかないこともある。世間では結果を大事にします。どうしてもこだわってしまいますが、たとえ結果が出なかつたとしても、いつまでも落ち込まない、思いを引きずらないことです。そして、もし仮にうまくいったとしても、それを決して自慢しない。自慢しないで、立ち止まらないで、次の目標に向かつてまた、

歩み続けることができるようになつた時、本当に尊く美しい人になるのだと思います。

もうひとつは「報恩感謝」という言葉です。努力精進するこ<sup>ト</sup>が大事だからといって、人は自分の努力、人間の力だけで生きているのではありません。水道の蛇口から出てくる水も、ペットボトルの水も元をただせば雨や雪です。雨や雪が降つてくださいなれば、人間は生きていけません。田植えが無事にすんでも、太陽の光に恵まれなければ苗は育たないし、農家の方のご苦労も大変です。大地と水と太陽の光と、多くの方のご苦労、さまざまご縁、いのちのつながりのなかで、私たちは共に生き、生かされて生きています。

新型コロナウイルス感染症の影響のなかで、東京の築地本願寺が行つた調査では、多くの方が「当たり前だと思つていたことが当たり前ではなかつたと感じた」という結果が報告されています。自肃生活において、これまで当たり前に行つてきた他人との交流や集いが制限されたことで、私たちがどれだけ多くの

つながりのなかで生きていたかということを、皆さんも、改めて実感されたのではないでしょうか。

どうか入学生の皆さん、自分の目標を定め、それに向かって常に努力精進し、「おかげさまでありがとうございました」の感謝の心を忘れない人になつてください。そして、自分だけを大事にするごとなく、人と喜びや悲しみを分かち合う、体験の機会を多く持つてください。

それぞれの学業にいそしみ、本学の「建学の精神」である仏法と親鸞聖人のみ教えに教え導かれ、自らの人生を築き上げていく時、皆さんの将来は、前途洋々たるものとなるでしょう。

仏さまのお悟りの真実とお慈悲のもと、入学生諸君のご多幸を念じます。

本日は、ご入学、誠におめでとうございます。

二〇二一（令和三）年 四 月 三 日